

ほんの森

図書館 ☎ 84-3311

図書館休館日

6月3日(火) 毎週月曜日

親子のための講座

昔から歌いつがれてきたわらべうたを、親子で一緒に歌ったり体を動かして遊びながら楽しいひとときを過ごしましょう。

とき 第1回 6月12日(木) 第2回 6月14日(土)
時間 午前10時~11時
ところ ハイビジョンホール
内容 わらべうた・絵本の読み聞かせなど
定員 各回30組
申込 図書館カウンターまたは電話で5月17日(土)から受付

日曜映画会

『ハリーポッターとアズカバンの囚人』

とき 5月18日(日)
 午前10時・午後2時
上映時間 2時間22分
ところ ハイビジョンホール
定員 各回 先着100名
 ※整理券は不要です



金曜映画会

『恋愛適齢期』

とき 5月23日(金)
 午後2時から
上映時間 2時間8分
ところ ハイビジョンホール
定員 先着100名
 ※整理券は不要です



文芸

◆俳句

気温差に翻弄されども今日の月 浅野 茂子
 春の山稜線雨で煙りをり 池田 逸子
 掲示板の菜花のはり絵通学路 伊藤 敬子
 風鳴なりに耳傾けて春風 伊藤 定男
 夫手植うこん桜やバースデー 今関満喜子
 花冷えや桜の命僅か延び 魚地 照子
 あわあわとミモザの花もゆく雲も 江森 悦子
 春蘭や雨を見上ぐる軒深し 川島 孝夫
 母子傘車椅子とも花見かな 桑名 大行
 まほろばや黒く抜がる春の土 向後 寛
 春耕や泥おちこちにトラクター 越川せつ子
 明日植えむ鏡のごとき水張田 越川 義則
 淋しさも心配も投げ春四月 越川 福子
 むつくりと寢床を残し春大根 小松 藤男
 啓蟄や主婦もシヤベルで庭いじり 佐瀬 輝夫
 物忘れ繰り返しては春の昼 鈴木とし子

鐘の音に花の散りけり奈良の里 高橋 七郎
 天守閣仰ぐ中空花吹雪 玉虫 栗扇
 蝦夷富士へ続く山なみ紫木蓮 戸村 静華
 春の月変わりゆく世を眺めけり 長谷川正子
 目覚めれば窓に影さす春の月 福田 幸子
 春光や遮るものなき宇宙 布施 和代
 町角の月なき夜の花あかり 山口 とし
 病妻の掌に一輪の花見かな 山口 一秋
 古伊万里の鉢に春蘭薫りけり 渡部 和秋

◆短歌

春雷を伴ふ雨のすがしくて 永藤 滋
 夜のしじまに独り聞きあつ 永藤 滋
 ほんのりと猫柳の穂に朝日差し 吉岡 信子
 輝きるたり寒も明けしか 吉岡 信子
 活け置きしアロエに白き根の出でて 池田 春江
 春の彼岸に鉢に移しぬ 池田 春江
 のんびりと鮫島有美子の愛唱歌 田崎 尚美
 ききつつ過ぐす雨の降る午後 田崎 尚美

柔かき春の日差しに自転車
 ペタルも軽く友を訪ひゆく 平山 芳子
 小さな花咲けるがに朱を見せ 庭の紅葉の芽生え初めきつ 佐瀬 初音
 幼きは吾を見詰めてたどたと ばあちゃん今日呼びてくれたり 押尾 輝子
 窓枠を額縁にせし沈丁花 今満開に咲き盛りあつ 鈴木まさ子
 一つの日か役立つこともあらむかと 服地の端切れ捨てかねるたり 芹川 初子
 昨日よりの寒のもどりに雪を増し 西山満里子
 ふるさと三島の富士の気高し 西山満里子
 トラクターに抜かれし葱が寝かされて 畑に冬日を浴びてゐるなり 八角 三枝
 刻長く祖母のみ墓を拝みあつ 明日は入試の浪人の吾子 島田ますみ
 亡き夫が守りてくれしと類焼を 免れし後をみ墓へと来ぬ 齊藤つね子
 黒人の中学生が「おはよう」と 老いたる吾に笑顔を投げる 土屋 好
 一人座す夫に声欠けお茶をする 三時待たずに弥生長閑けき 安田マサ子
 鎮魂の辞碑の前で朗読し 往時を忍び感動新たなり 鈴木 益郎